公益財団法人 埼玉県産業振興公社

令和5年度事業継続力強化計画

業種別モデル：卸売業・小売業－建築材料、鉱物・金属材料等卸売業

（建設資材等卸売業）

本資料は、中小企業庁の「事業継続力強化計画策定の手引き」（以下、「手引き」と云う）を基に、中小企業・小規模事業者の皆様の同計画策定の一助となるよう、業種別の策定記載例を示したものです。

「手引き」と合わせて、事業継続強化計画を作成する際の参考にしてください。

（参考）中小企業庁「事業継続力強化計画策定の手引き」　　　　　

<https://www.chusho.meti.go.jp/keiei/antei/bousai/download/keizokuryoku/tebiki_tandoku.pdf>



なお、本資料についてご質問やコメントなどがありましたら、こちらにご連絡をお願いいたします。

【公益財団法人　埼玉県産業振興公社　　経営支援部経営支援グループ】

電話：　048-647-4085

E-mail：　[desk@saitama-j.or.jp](mailto:desk@saitama-j.or.jp)

HP：　<https://www.saitama-j.or.jp>

**様式の記入例（卸売業－建築材料、鉱物・金属材料等卸売業）**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 申請先 | 関東経済産業局長　　　殿 | | |
| 住所 | **必須** | 〒 | ○○○－○○○○ | |
| 都道府県 | 埼玉県 | |
| 市区町村 | ○○市 | |
| 字・番地等 | ○○○ | |
| マンション名等 |  | |
| 事業者の  氏名又は名称 | **必須** | 株式会社○○○○ | | |
| 代表者の役職 | **必須** | 代表取締役 | | |
| 代表者の氏名 | **必須** | ○○　○○ | | |

1. 本社登記されている住所を入力してください。
2. 省略等はせず、正式名称を入力してください。
3. 役職名は必ず記載下さい（未記載はエラーとなります）。なお、個人事業主等で役職名がない場合は「代表」と入力してください。
4. 氏名の間には、全角スペースを1文字分入れてください。　＜記入例＞　継続　太郎

**１. 名称等**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 申請種別 | |  | |
| 事業者の氏名又は名称 | **必須** | 株式会社○○○○ | |
| 事業者の氏名又は名称  （フリガナ） | **必須** | カブシキカイシャ　○○○○○○ | |
| 代表者の役職 | **必須** | 代表取締役 | |
| 代表者の氏名 | **必須** | ○○　○○ | |
| 資本金又は出資の額 | **必須** | 〇〇〇〇〇〇〇円 | |
| 常時使用する従業員の数 | **必須** | ○○名 | |
| 業種 | **必須** | 大分類 | 卸売業・小売業 |
| 中分類 | 建築材料、鉱物・金属材料等卸売業 |
| 設立年月日 | **必須** | ○○○○年○○月○○日 | |
| 法人番号 | **必須** |  | |

1. 事業者の氏名又は名称をカタカナ(※)で入力してください。　「カブシキガイシャ」「ユウゲンガイシャ」なども漏れなく記載してください。　事業者の氏名又は名称にカタカナもしくはアルファベット等が使用されている場合においても、 フリガナを入力してください。　※入力可能文字；　全角カタカナ、全角長音、全角スペース、「・」、「’」、「，」、「－」、「．」
2. 役職名は必ず記載下さい（未記載はエラーとなります）。　なお、個人事業主等で役職名がない場合は「代表」と入力してください。
3. 業種は日本標準産業分類の中分類を入力してください。　日本標準産業分類コード：　　<https://www.e-stat.go.jp/classifications/terms/10>　判断に迷われる際は、最寄りの経済産業局等にお問い合わせください。

**２. 事業継続力強化の目標**

**（１）　自社の事業活動の概要**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自社の事業活動の  概要 | **必須** | 当社は、主に埼玉県北部地域の工務店やハウスメーカーに新築用及びリフォーム用の建設資材の販売を行っています。また、従業員の多くは○○市内から通勤しており、地元からの雇用に積極的に取り組む会社です。  取引先である工務店・ハウスメーカーのニーズに応えられるように、多種多様な素材、形状の商品を取り揃えることで、顧客より高い評価を得ています。  当社が自然災害などで長期間（2週間以上）休業すると、取引先の工務店やハウスメーカーの施工スケジュールに影響を与えてしまい、敷いては最終ユーザーであるお客様にご迷惑をお掛けすることになります。  なお、建設資材は地域的な特徴があるため、他地域の資材を活用するには多くの場合、地域に合うように加工が必要になります。    **本社とは別の所在地に工場・倉庫がある場合は、本欄の末にその所在地・常勤従業員数と明記します。　以下はその事例です。**  **【本社】　埼玉県○○市○○○**  **（常勤者数） ○○名**  **【支社】　埼玉県□□市□□**  **（常勤者数） □□名** |

1. 自社がどのような事業を営んでいるのかを、わかりやすく簡潔に記入してください。
2. 業種等に加え、自らの事業活動が担う役割（サプライチェーンで重要な部品を卸している、地域の経済・雇用を支えている等）を検討したうえで記載してください。

**（２）　事業継続力強化に取り組む目的**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 事業継続力強化に  取り組む目的 | **必須** | 当社は以下の目的のために事業継続力強化に取り組む。   1. 災害発生時においては何よりも人命を最優先とし、従業員とその家族、関係者の安全を確保すること 2. 雇用の維持をはじめとして、地域経済に引き続き寄与すること 3. 地場の建築資材の卸売として、工務店及びハウスメーカーに必要な資材の供給を維持すること |

1. 自社が担う役割を踏まえつつ、下記の観点について自社の理念等と照らし合わせて考えてください。
2. 「事業継続力強化計画作成指針第１－ロ」 の考えに基づき、自社が被災した場合のサプライチェーンや地域経済への影響度や、従業員に対する会社の姿勢について、可能な限り具体的に記載してください。

* 従業員やその家族に対する責務
* 自社の企業理念や経営方針
* 顧客・取引先や地域経済に対する影響
* 事業継続力強化に当たっての理念や基本的な方針

**（３）　事業活動に影響を与える自然災害等の想定**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 事業活動に影響を与える自然災害等の想定 | **必須** | 当社について、○○市および埼玉県のハザードマップは次のような自然災害の危険性があるとしている。   1. 今後３０年以内に震度６弱以上の地震が発生する確率は、 ５０％以上で、本社は最大震度６強、液状化の危険性は低い 2. 水災の対象河川は、○○川と△△川で、最大浸水深は ０．５ｍ未満 3. 土砂災害の可能性はない。   **本社とは別の拠点（支社・倉庫など）がある場合は、その拠点についても各自治体のハザードマップなどで確認し、それぞれの危険性を記入します。** |

**ハザードマップの入手方法**

* 地域の自治体HP
* 国土交通省ハザードマップポータルサイト
* J-SHIS（地震ハザードステーション）

**（４）　自然災害等の発生が事業活動に与える影響**

想定される自然災害等が、どのような影響を及ぼすかを５つの項目（人、モノ、金、情報、その他）から検討します。

|  |  |
| --- | --- |
| 自然災害等の発生が  事業活動に与える影響 | **（想定する自然災害等） 　必須**  想定する自然災害のうち、事業活動に与える影響が最も大きいものは、最大震度６強の地震である。  **埼玉県の場合は、「地震と水災」の事例も少なくありません。** |
| **（人員に関する影響）　必須**   1. 営業時間中に地震が発生した場合は、本社及び展示場では商品棚から落下物で負傷する可能性がある。 2. 加工工場及び倉庫では長い建設資材（木材・鋼管など）が転倒し、負傷する可能性と、加工設備の横ずれにより負傷する可能性がある。 3. 本社では事務棚やキャビネットからの落下物により負傷する可能性がある。 |
| **（建物・設備に関する影響）　必須**   1. 本社及び展示場の建物は、築１５年の鉄骨・３階建で、震度６強でも倒壊の恐れはないが、棚・ロッカーなどの什器類が転倒する可能性がある。 2. 加工工場及び倉庫（築３５年の鉄骨平屋）は屋根の一部が破損する可能性がある。 3. 本社・展示場・加工工場・倉庫の天井から蛍光灯などが落下する恐れがある。 4. 電力供給がとまる可能性がある。 5. 上下水道が使用出来なくなる可能性がある。 |
| 災害等の発生が  事業活動に与える影響 | **（資金繰りに関する影響）**　**必須**   1. 地震による事業活動の休止は、当社のみでは最大で１０日間と予想するが、現場で必要な協力会社が稼働するまで３０日間は要すると考えている。 2. 当社の休業が３０日までのケースでは自己資金で対応可能だが、　３０日を超えると運転資金が枯渇することや復旧費用を捻出できないことが想定される。 3. 地震の保険には加入しており、補償額も十分と考えている。 |
| **（情報に関する影響）**　**必須**  本社にあるＰＣ（顧客情報、資材・加工情報、関係図面、財務資料など）が地震で破損すればクラウド化してあるデータ以外（具体的には、一部の契約書及び個人用データ類）は喪失する恐れがある。 |
| **（その他の影響）**   1. 道路などのインフラ被災の影響により、現場従業員の通勤が困難になる。 2. 建設資材の調達・搬入出が困難になる。 3. 加工の委託先が災害により休業する可能性がある。 4. 上記の場合、取引先と契約通りの納期が長引く可能性がある。 |

1. 前項目で想定した自然災害等のうち、最も大きな被害が想定される自然災害を対象として、事業活動に与える影響を想定します。
2. 「事象リスト」 と、 「脆弱性リスト」 を参考にし、自社に当てはめて事業活動に与える影響を考えてみましょう。
3. また、自社だけではなく取引先の被災やインフラなどの影響を検討することも重要です。

**３. 事業継続力強化の内容**

**（１）　自然災害等が発生した場合における対応手順**

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| **項目** | | **初動対応の内容** | **発災後の対応時期** | **事前対策の内容** |
| 1 | 人命の安全確保 | **必須**  従業員の避難方法 | 発災直後 | 大きな揺れが発生した場合は、当社の駐車場に避難する。  揺れが収まった後は、状況により指定避難所（○○市立○○小学校、徒歩約１０分）に避難する。  納品中の場合は、従業員へ安全確保方法の徹底している。  指定避難所までの避難経路の周知・確認する。 |
| **必須**  従業員の安否確認 | 発災後１時間以内 | 従業員の連絡網の整備  （ＬＩＮＥＷＯＲＫＳ、携帯電話番号）  納品中の場合は、本社との緊急時連絡方法の整備 |
| 生産設備の緊急停止方法 | 発災後１時間以内 | 発災直後及び緊急時における加工設備・事務機器の緊急停止手順の確認と周知の徹底 |
| 2 | 非常時の緊急時体制の構築 | **必須**  代表取締役を対策本部長とした、災害対策本部の立ち上げ | 発災後１２時間以内 | 設置基準の策定（震度５弱以上）  災害対策本部の運営方針の整備  代表取締役不在時（代行者：取締役など）の対応方法 |
| 3 | 被害状況の把握  被害情報の共有 | **必須**  現場の被災状況や、業務活動への影響の有無の確認  当該情報の第一報を顧客及び取引先への報告 | その他  発災後２４時間以内 | 被害情報の確認手順の整理  被害情報及び復旧の見通しに関する関係者への報告方法、対外的な情報発信方法の策定など |
| 4 | その他の取り組み | 事業再開手順 | その他  発災後７２時間以内 | 資材や加工設備の修理・廃棄・再調達の判断方法  本社・展示場・加工工場・倉庫の整理、清掃方法  設備の再稼働手順 |

**（２）事業継続力強化に資する対策及び取組**

各経営資源（ヒト、モノ、カネ、情報）について、A～Dに事前対策における「現在の取組」と、「今後の計画」の取組案を記入してください。

その際、各経営資源（Aヒト、Bモノ、Cカネ、D情報）において、自然災害等の影響がないものについては記載する必要はなく、自社にとって、事業継続上どのような対策を講じることが特に有効であるか、という観点で検討してください。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **項目** | | **現在の取組** | **今後の計画** |
| A | 自然災害等が発生した場合における人員体制の整備 | 避難訓練  緊急連絡網の整備  消防関係設備の点検は自社で実施している。 | 地震発生時の場合：初期消火訓練、対策本部の設置訓練を加える。  納品中に水災の場合：注意報・警報が出た場合の対策本部の対応訓練 |
| B | 事業継続力強化に資する設備、機器及び装置の導入  ※税制優遇を希望する場合、この項目は入力必須です。 | 本社・展示場は耐震構造を取り入れている。 | 停電の発生に備えて、自家発電設備の追加導入を検討する  加工工場・倉庫の耐震性の強化を検討する。 |
| C | 事業活動を継続するための資金の調達手段の確保 | 現在、火災保険（地震特約付き）に加入しており、保険の対象範囲は、建物・設備等となっている。  休業が長期（１カ月以上）にわたる場合は、付保していない休業補償額が大きくなり、復旧費用や運転資金などの資金調達を圧迫することが想定される。 | 現在加入している保険について、休業補償保険を追加することを検討する。  自然災害が発生した際に緊急融資が受けられるよう、地元の金融機関（銀行）の担当者とコミュニケーションを取る。 |
| D | 事業活動を継続するための重要情報の保護 | 現在、一部のデータはクラウド化されている。 | 更にクラウド化を進める。 |

**（３）事業継続力強化設備等の種類**

**注意点**

* 税制優遇を希望する場合は入力必須です。
* 税制措置の適用を受ける場合、税制優遇の対象は中小企業者等（資本金１億円以下等）となります。
* 資本金が１億円より大きい場合は、「税制優遇を活用する」のチェックボックスは非活性となり押下できません。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **確認項目** | **チェック欄** | **記載方法** |
| 税制優遇を活用する |  | 記載方法は「事業継続力強化計画策定の手引き」を参照 |

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | **（２）の**  **項目** | **取得年月** | **設備等の名称** | **設備の型式** | **所在地** |
| 1 |  |  |  |  |  |
| 2 |  |  |  |  |  |
| 3 |  |  |  |  |  |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | **設備等の種類** | **単価（千円）** | **数量** | **金額（千円）** |
| 1 |  |  |  |  |
| 2 |  |  |  |  |
| 3 |  |  |  |  |

|  |  |
| --- | --- |
| **確認項目** | **チェック欄** |
| 上記設備は、建築基準法（昭和二十五年法律第二百一号）及び消防法（昭和二十三年法律第百八十六号）上設置が義務づけられた設備ではありません。 |  |
| 上記設備は、中古品及び所有権移転外リースによる貸付資産ではありません。 |  |
| 上記設備は、国又は地方公共団体の補助金等の交付を受けて取得等した設備ではありません。 |  |

**５. 事業継続力強化を実施するために必要な資金の額及びその調達方法**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **実施事項** | **使途・用途** | **資金調達方法** | **金額（千円）** |
| 事前対策 | 従業員・関係者への給与、社会保険料等の支払い　（２か月分） | 銀行融資 | ４５，０００ |
| 事前対策 | 自家発電設備 | 自己資金 | ４，０００ |
| 事前対策 | 災害用工具、備蓄食料・水の追加購入（年間） | 自己資金 | １，０００ |
| 事前対策 | クラウド化の推進  （年間） | 自己資金 | ３６０ |

1. 計画に記載された事業継続力強化設備等の導入等、事業継続力強化に資する対策及び取組を確実に遂行するために必要な資金の額を検討したうえで、その調達方法を「資金調達方法」欄に記載してください。
2. 「何の目的で」、「どのような使い方をするのか」を「使途・用途」欄に簡潔に記載してください。
3. 「損害保険への加入」等を「資金調達方法」に記載する場合は、「金額」の欄には、加入に際して必要な保険料ではなく、事業の継続に必要な金額（＝補償対象となる事由が発生した場合に自社に支払われる保険金の金額）を記載してください。

**３. 事業継続力強化の内容**

**（４）事業継続力強化の実施に協力する者の名称及び住所 並びにその代表者の氏名 並びにその協力の内容**

|  |  |
| --- | --- |
| 名称 | A株式会社 |
| 住所 | ○○県○○市○○ |
| 代表者の氏名 | ○○　○○ |
| 協力の内容 | 自然災害に備えた事前対策の取組強化について、技術的な助言を受けるほか、自社の加工工場で支障が生じた場合、同社からの資機材の支援を受けることについて、検討・決定する。 |

|  |  |
| --- | --- |
| 名称 | B銀行　○○支店 |
| 住所 | 埼玉県○○市○○ |
| 代表者の氏名 | （支店長）　○○　○○ |
| 協力の内容 | 被災時に、緊急融資を受けられる契約を結んでおくとともに、埼玉県信用保証協会のセーフティネット保証を活用することについて、事前に協議する。 |

|  |  |
| --- | --- |
| 名称 | ○○市商工会 |
| 住所 | 埼玉県○○市○○ |
| 代表者の氏名 | （会長）　○○　○○ |
| 協力の内容 | 地震：　被災後に行政情報（支援情報）の提供を依頼する。  水災：　水害に対する事業継続の強化に関する指導を依頼する。 |

**（５）平時の推進体制の整備、訓練及び教育の実施その他の事業継続力強化の実効性を確保するための取組**

事業継続力強化に当たっては、単に計画を策定するだけではなく、自然災害等が発生した場合の実効性も求められます。災害時に使えるような計画にするための取組を検討しましょう。

* 実効性の確保には、経営層の関与が必要不可欠です。必ず、経営層のコミットメントについて記載してください。
* 年１回以上の訓練と計画の見直しについても必ず記載してください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **経営層の下推進** | **教育・訓練の実施** | **見直しを計画** |
| **必須** | **必須** | **必須** |
| 計画の推進及び訓練・教育については、代表取締役の指揮の下に実施する。  毎年３月と９月に○○市で発生する自然災害について代表取締役と従業員で話し合い、対策を検討する。 | 安否確認訓練を年２回（３月と９月に）実施する。  地震対策として毎年３月と９月に指定避難所までの避難訓練を全従業員と一緒に実施する。  合わせて、災害用の備蓄品の点検と整備を行う。 | 実態に則した計画となるように、年１回以上計画の見直しを実行する。 |

1. 実効性を確保するために、平時から行う取組を検討します。
2. 以下の3点全てについて、自社の取組を検討し、必ず記載してください。

* 平時の取組推進について、経営層の指揮の下実施する体制を整える。
* 年１回以上、訓練や教育を実施する体制を整える。
* 年１回以上、事業継続に向けた取組内容の見直しを計画する。

1. 平時の体制を活用することも有効です。
   * 例えば、製造工程の安全操業のための工程安全管理委員会を設置し、月１回見直会議を図っている場合、当該会議に災害対策を追加するなど。

**４　実施時期**

実施期間について、3年以内の取組としてください。

期間の開始は本申請書の申請日以降の年月からとしてください。

○○○○年○○月 ～ ○○○○年○○月

**年月を記入してください**

**６　その他**

* 1. **関係法令の遵守（必須）**

|  |  |
| --- | --- |
| 確認項目 | チェック欄 |
| 事業継続力強化の実施にあたり、私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律（昭和二十二年法律第五十四号）、下請代金支払遅延等防止法（昭和三十一年法律第百二十号）、下請中小企業振興法（昭和四十五年法律第百四十五号）その他関係法令に抵触する内容は含みません。 | ✓ |

**チェックしてください**

**（２）　その他事業継続力強化に資する取組（任意）**

|  |  |
| --- | --- |
| 確認項目 | チェック欄 |
| レジリエンス認証制度（※１）に基づく認証を取得しています。 |  |
| ISO 22301認証（※２）を取得しています。 |  |
| 中小企業BCP策定運用指針に基づきBCPを策定しています。 |  |

（※１）国土強靱化に貢献する団体を認証する制度

（※２）事業継続マネジメントシステム（BCMS）の国際規格